

2024年2月26日からの千葉県東方沖の地震の評価（案）

- 2月27日0時頃から、千葉県東方沖を中心に、千葉県南部付近にかけてまとまった地震活動が継続している。3月1日〇〇時までに震度1以上を観測した地震は〇回発生（最大震度4：〇回、最大震度3：〇回）し、最大の規模の地震は、3月1日5時43分に発生したマグニチュード5.2の地震である。これらの地震の発震機構は、概ね北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、いずれの地震もフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 傾斜・GNSS（・ひずみ）データによると、房総半島では2月26日頃から通常とは異なるわずかな地殻変動を観測している。これまでにGNSSで検出された地殻変動は、大きいところで約1cmである。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。
- この付近では、過去にも数年に一度程度の頻度で同様の現象が観測されている。これまでに、1996年、2002年、2007年、2011年、2014年、2018年に見られており、1週間から数か月間程度地震活動が継続することがある。また、2007年には最大震度5弱を観測している。
- これまでもゆっくりすべりを伴う地震活動は、数年に一度の間隔で繰り返し発生している。過去の地震活動を踏まえると、今後も引き続き地震が発生し震度5弱程度の強い揺れが観測される可能性があるため、強い揺れに注意が必要である。
なお、これまでの活動における地震の規模は、最大でもM5程度であり、「相模トラフ沿いで発生する地震活動の長期評価（第二版）（平成26年4月25日公表）」で評価されているようなプレートの沈み込みに伴う地震よりも規模は小さい。
- 今回の地震が発生した南関東地域は、南側から沈み込むフィリピン海プレートの下に、東側の日本海溝から太平洋プレートが沈み込んでおり、これまでにM7程度の地震が多く発生していることが知られている。「相模トラフ沿いの地震活動の長期評価（第二版）」では、このようなプレートの沈み込みに伴うM7程度（M6.7～M7.3）の地震が30年以内に発生する確率はⅢランク（*）と評価され、海溝型地震の中では発生する確率が高いグループに分類されている。

*：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Ⅹランク」と表記している。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。